平成31年・令和元年度　　唐津市立呼子小学校　学校評価結果

| 1　学校教育目標 | 2　本年度の重点目標 |
|---|---|
| 自他を大切にするとともに，主体的に考え・動く子どもの育成<br>～　つよく　・　かしこく　・　あたたかく　～<br>【めざせ！　きらりと光る呼子っ子】<br>よ　よく聞き考え　進んで勉強（かしこく）<br>ぶ　ぶつかるやる気　バリバリ仕事（あたたかく）<br>こ　ことばハキハキ　あいさつ礼儀（あたたかく）<br>つ　つけようけじめ　なくそういじめ(あたたかく)<br>こ　こころキラキラ　じょうぶな体（つよく） | ①学力の向上（学習部）<br>②特別支援教育の充実（環境づくり部）<br>③心の教育の充実（仲間づくり部）<br>④人権・同和教育の充実（人権部）<br>⑤業務改善 |

達成度
A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

3　目標・評価

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点（具体的評価項目） | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果◎・課題▲　（左記の理由） | 具体的な改善策■・向上策◆ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①一人一人が大切にされる学習活動づくり　学力の向上（学習部） | | | | | | | |
| 教育活動 | ●学力向上 | （1）表現すること，考えることを楽しむ授業づくり<br>（2）授業改善<br>（3）宿題の徹底指導<br>（4）自学学習の充実 | ・4月調査の結果から12月調査で各教科で5ポイント向上させる。<br>・「授業はよく分かるか」90%以上（児童アンケート）。<br>・「家庭学習の習慣が定着している」と答える保護者を75%以上にする。<br>・年間読書冊数目標が達成できた児童90%以上を目指す。 | （1）唐津市学力向上アクションプラン，及び「よぶこっこ」の学習過程に則った授業を展開し，児童の主体的な学習態度や意欲を高めるよう授業改善を図る。<br>・表現力向上のための書く活動の充実<br>・条件作文の内容の精選と掲示による周知<br>（2）TT，少人数，習熟度別学習の実施で個々の児童にわかる喜びを感じさせる授業づくりを推進する。<br>・教師主導の授業からの脱却<br>・全ての教科での課題解決型の授業を目指す<br>（3）家庭学習の「日記」欄，「保護者」欄等を全校統一し，確認，返信等が確実にできるようにする。<br>・毎日，宿題をする習慣をつける<br>・週末宿題の充実（校長・教頭・教務担当）<br>（4）学校や家庭での読書の励行や読み聞かせの実施等により，児童の読書への興味・関心を高める。 | B | ▲学力向上については，記述することに対する児童の抵抗感が減ってきたという実感はあるものの，「条件に合わせて書く」や「複数の資料を関連付けて説明する」といった面では課題が残った。<br>▲年度当初より基本的な学習習慣や，生活習慣が身についてきたが，80%程度の児童にとどまった。<br>◎校内研究について全校や学年Gの授業研究を進めた。学習過程の改良をポイントを絞って進めた。児童の学ぶ姿勢や話し合う姿勢の向上が見られた。<br>◎各学年に応じた指導方法を検討し，授業形態の工夫や授業改善，意見・表現の向上を進めた研修ができた。<br>◎「先生たちは教育に熱心に取り組んでいる」と答える保護者は97%を占め，目標を達成した。<br>◎▲「授業はよく分かるか」と答える児童は92%（児童アンケート）で目標を達成した。反面，「家庭学習の習慣が定着している」と答える保護者は，73%でやや目標値を下回った。<br>◎読み聞かせや読書タイムなど児童が読書をする習慣を身に付ける素地を養うことができた。また，国語の学習などで，読書につながる指導を心がけることで，読書への関心が高まっている児童もいるが，時間を設定しないと読書に取り組まない児童もいる。<br>◎▲家庭学習の日記と保護者記入欄を統一することで，毎日文章を書くという習慣が身に付いた。保護者からのサインや連絡は，家庭によって差が大きい。協力的な家庭が多いが，なかなか協力を得られない家庭もある。<br>▲状況調査結果が唐津市平均点まで至らなかった。 | ■指導についての研究を進め，「ノート指導」「話し合い活動の活性化」を通して，子どもの表現力（思考力）の向上を目指す。さらに，話し合い活動の活性化のために「記述力」の向上を目指して取り組みを行う。<br>◆全職員が，児童の不足する力を補う手だてを確認するとともに，研究主題を再確認し，取り組み方について共通理解する。<br>■学年の実態に応じた指導をすすめ，授業形態の工夫や授業改善について研修する。<br>◆教材やワークシートの共有をし，わかる授業，児童が主体的に学習したくなる授業づくりにつなげる。<br>■さらに家庭との連携を図り，低学年期では，鉛筆の持ち方や姿勢について指導していく。<br>■継続して通信で忘れ物が無くなるように呼びかける。<br>◆一人一人定着状況に合わせ細やかな指導を進めていく。<br>■児童の学ぶ姿勢や聞く，話し合う姿勢の向上をめざし，指導方法を共通理解のもと，展開する。<br>◆「教育に熱心に取り組んでいる」状態を作品掲示や通信などで保護者に提示する。<br>◆「子どもが分かる」といえるように授業研究や指導方法の研究研修を進める。<br>■学校図書館を利用した授業づくりの提案や使いやすい環境づくりをし，教職員も児童も図書室に足を運びたくなるようにする。また，家読の奨励をする。 |
| | ○地域連携 | （1）いきいき学ぶからつっ子事業の充実<br>（2）「開かれた学校」の推進 | ・「呼子町のいいところを人に話すことができる」と答える児童を80%以上にする。<br>・「地域の人材，自然や文化，伝統等の教育資源を活用できた」と答える職員を85%以上にする。<br>・学校と地域の連携を活かした教育活動の展開 | （1）「いきいき学ぶからつっ子」育成事業を活用し，保護者，地域と学校の連携を強化する。<br>（2）学校だよりを全保護者・学校評議員・民生委員・町 内回覧板等に配付するとともに，ホームページでも情報を積極的に公開する。<br>・「はなまる連絡帳」の内容の充実を図り，積極的な情報発信に努め，はなまるメール登録90%を目指す。<br>・PTA総会の出席100人を超す。 | B | ◎「いきいき学ぶからつっ子事業」等で直接的に学校に協力いただいた地域の方は70名と，例年並みだった。しかし，朝市通りでの米の販売やその収益金を武雄豪雨募金にしたり，中尾鯨組主家での「ハイヤ節」の発表，公民館行事への参加，小川島訪問など多岐にわたり地域との連携ができ，学校と地域の相互恩恵的な関係が構築できている。<br>◎学校便りは予定通り月に平均2回，地域等に回覧を行った。また，ホームページにも掲載した。ホームページ閲覧数は全世帯数の70～80%あった。<br>◎「はなまる連絡帳」の登録率は，90%以上という目標は達成している。天候不良や不審者情報など細やかに情報発信を行うことができた。<br>▲「地域の教育資源を活用できた」と答える職員は50%で大変低くなっている。また，「呼子町のいいところを話すことができる」という児童も目標の数値には達していない。 | ■いきいき学ぶからつっ子事業の予算縮小の中で学校全体として「いきいき学ぶからつっ子」をどのように活用していくのか再検討する必要がある。一方で各学年の総合的な学習の時間などの取り組みを見ると，外部人材を積極的に活用している様子も見える。実際の学習が地域と連携していることの「見える化」を図り，教師の意識向上に努める。<br>◆新学習指導要領の全面実施に当たり，総合的な学習の時間の評価が変わったり，教科横断的な学習が推奨されている中で，教師や児童が「地域」をどのように各教科の学習とつなげていくのかという視点を持てるようにすることが重要であると考える。そこで，総合的な学習の時間のカリキュラムについて全職員で再検討を行い，次年度につなげる。<br>◆ホームページ作成画面が新しいものにかわったので，ブログなどの情報発信をさらに進めていきたい。 |
| ②一人一人が大切にされる環境づくり　特別支援教育の充実（環境づくり部） | | | | | | | |
| 教育活動 | ○特別支援教育 | （1）呼子小UD化の充実<br>（2）特別支援教育の保護者への啓もう | ・「学校が楽しい」と答える児童（児童アンケート）を95%以上にする。<br>・「言葉づかいが昨年よりよくなった」割合80%以上（職員アンケート） | （1）職員研修や資料配布を通して，教職員や保護者の特別支援教育についての知識や理解を深める。。<br>・支援を要する児童の実態把握を行い，こども支援会議，ケース会議，教育支援会議を通して，全職員の共通理解を図ることで有効な支援をする。<br>・SCや巡回指導等の外部機関を積極的に活用する。<br>・授業のUD化で児童の学習理解を進める。<br>（2）「レインボー週間」のチェック表の活用や「えがお」の発行による啓発活動に取り組む。<br>（3）規範意識を育てる取組を焦点化する。<br>・5・9・1月にレインボー週間を設定する。<br>・言葉遣いについて考させる全校道徳とぽかぽか言葉の実践につなげる強化週間を設ける。（各学期に1回）<br>・「えがお」を発行して保護者への啓発をする。（各学期に1回） | A | ◎「学校では友達と楽しく過ごせている」と答える児童は93%で目標値と同程度であった。<br>◎夏季研修でSCの宮原先生を招き，グループエンカウンターやSSTの体験を先生方にして頂いた。また，保護者向けの「えがお」を今年度も4校持ち回りで作成し，特別支援に対する保護者の啓もうや理解を図った。職員向けの「チラッとみてね。」も不定期であるが，発行した。<br>◎ケース会議などを行い，職員の共通理解も行えた。SCや巡回指導についてもたくさん活用し，支援方法を探ることができた。<br>◎「分かる授業」を意識する中で，自ずとUDについても考えられるようになった。<br>▲気になる児童，支援が必要な児童がとても多く，それぞれの児童の経過を追いながら支援を考えていくということは通常学級ではなかなか難しかった。<br>▲家庭と学校の連携を深めるため，SCなどの協力を得て打開策を探って行ってはいるものの，改善は難しい。<br>▲日々の多忙さで，授業を練る・きめ細かい準備をするということが難しい状態にある。<br>◎特別支援教育については，ケース会議を適切なタイミングで適切に行い，教職員が協力して支援を行うシステムができあがり，成果が実感できた。また，授業のUD化についても共通理解が進んだ。<br>▲保護者アンケートでは言葉遣いが気になるという声があった。思いやりに欠ける言動がまだ多い。 | ■行事の精選，時間の有効活用が課題と考える。<br>■次年度に向けた時間割の検討や支援者の分配などを早めにして，人的支援による刺激量の調整やルールの明確さを目指す。<br>■アンケート分析を学校評価アンケートではなく，心のアンケートで行う。<br>◆特別支援教育は人権教育の元に成り立つものである。子どもたちの人権意識をさらに高め，誰もが安心して楽しく学ぶ環境を作っていかなくてはならない。<br>◆「えがお」の継続発行や職員研修により，保護者や職員の理解を高める。<br>◆学校生活におけるUD化を深める。<br>■本校は，言葉の暴力や児童同士のトラブルが多い。アンケートをとることの意義を伝える必要がある。児童の心を知る手段として引き続き，アンケートを行うことで，児童の諸問題に対して迅速に対応できるようにしていく。 |
| ③お互いの良さを認める仲間づくり　心の教育の充実（仲間づくり部） | | | | | | | |
| 教育活動 | ● 志を高める教育 | （1）自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 | ・ 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒を85%以上にする。 | （1）地域を生かした学習や夢・目標について自ら考えさせる場面を設け，全ての教科等，学校行事等を通して，郷土を誇りに思う心や自己肯定感を高めさせる。 | B | ▲「呼子町のいいところを人に話すことができる」と答えた児童は76%，「地域の教育資源を活用できた」と答える職員は50%でいずれも目標には到達できなかった。<br>◎総合的な学習の時間や生活科の中で，全学年で郷土や地域を題材にした学習を行った。学習や行事を通して振り返りの中で，郷土を誇りに思う感想も増えた。 | ◆発達段階に応じ，道徳や学活の中でキャリア教育を視点とした学習に取り組むことで，自己実現への思いやこれからの活動に生きる学びにつながると考える。<br>■行事や日々の授業の振り返りを積み重ねることで，経験を通した自己肯定感を高めていく。 |
| | ●心の教育 | （1）「キラリ」見つけ活動の質の向上<br>（2）「出番・協働・承認」で創る教育活動 | ・「きらり」見つけの対象が昨年より広がった」割合70%以上（職員アンケート）<br>・児童集会で意見交換が昨年度より活発になる（観察）。 | （1）毎月10日を「心の教育推進日・命の大切さを考える日」とし，学校で講話等を実施し，家庭でも家族内で の話を行うように推進する。<br>・児童の「キラリ」見つけ活動を行い，自尊感情を高める。<br>（2）Q－Uアンケートを有効活用し，望ましい児童集団を構築し，学級運営に生かす。<br>・学級で実践を進め，児童の主体性を高める委員会活動を促す。 | A | ◎キラリ見つけが常態化に近い形になり，友だちとの良い関係に目を向けることが増えてきた。学校全体に良いところを褒め合う，認め合う雰囲気がだんだんと高まり，穏やかな雰囲気になりつつある。<br>◎学校行事や各種集会を児童が企画や運営する機会を増やしたことで，自信をつけたり全校児童の前でもチャレンジしたりする児童が増えた。<br>▲キラリ見つけの意欲継続には課題がある。活動が常態化する一方，意欲を高い状態で維持できなかった。<br>◎「キラリ見つけ」「出番・協働・承認で創る教育活動」の全校的な実践で，子どもたちの自信が少しずつ育ってきている。言葉づかいには，まだ問題もあるが，優しい言動ができる子どもが増えてきている。 | ◆「キラリ見つけ」推進について児童活動の中で改善案を話し合い，提案・実行する。<br>■「キラリ見つけ」「出番・協働・承認で創る教育活動」は，より質を高めて継続実施する。<br>■Q-Uを居心地の良い学級づくりに活かしていく。 |
| ④お互いを尊重する人権学習づくり　人権・同和教育の充実（人権部） | | | | | | | |
| 教育活動 | ○人権・同和教育 | （1）人権・同和教育総合推進事業の促進<br>（2）全校道徳，強化週間の設定（各学期） | ・「自分や友だちを大切にできた」と答える児童が80%以上（児童アンケート） | （1）発達段階に応じた様々な人権課題をテーマとした9年間の系統性のある人権学習づくり。<br>・児童の人権に関する知的理解と人権尊重の意識，人権感覚を高める実践に努める。 | A | ◎▲児童のアンケートで友達を大切にしている（90%）と態度面の向上がうかがえるが、学級等で自分は大切にされている（81%）と感じている児童の割合がやや低い。<br>◎小中連携の9年間の系統性のある学習計画を作成することができた。人権アンケート2回実施し，1回目と2回目と比較することができた。<br>◎人権集会，全校道徳を実施し，命について考える時間をつくることができた。 | ■今後9年間の系統性のある人権学習計画に沿って各学年が取り組んでいく必要がある。<br>■今年度の人権アンケートをもとに来年度以降のアンケート結果の変化を見ていく必要がある。<br>■Q-Uを居心地の良い学級づくりに活かしていく。 |
| | ●いじめ問題への対応 | （1）いじめの未然防止，早期発見，早期対応<br>（2）言葉づかいの指導強化 | ・毎月生活状況調査を行い，いじめ等生徒の問題の早期発見に努める。<br>・「言葉づかいが昨年よりよくなった」割合80%以上（職員アンケート） | （1）毎月10日の「心のアンケート」から児童の実態を把握し，早期対応を行う。全職員で共通理解を図り，学校全体で児童に対応をしていく。<br>（2）規範意識を育てる取組を焦点化する。<br>・5・9・1月にレインボー週間を設定する。<br>・言葉遣いについて考させる全校道徳とぽかぽか言葉の実践につなげる強化週間を設ける。（各学期に1回） | B | ◎心のアンケートから，児童が抱く課題や困惑について些細なことについても，担任が対応できた。<br>◎気になる事例については，子ども支援会議で共通理解することができた。SCを活用した面談やケース会議，保護者との面談などを継続しながら取り組むことができた。<br>▲「さん・くん」づけについては繰り返し指導を続けているが，なかなか定着しない。<br>▲11月26日に講師招聘の講演会を行ったが，保護者の参加が少なかった。来年度以降は，参加しやすい方法を工夫していく。 | ■本校は，言葉の暴力や児童同士のトラブルが多い。アンケートをとることの意義を伝える必要がある。児童の心を知る手段として引き続き，アンケートを行うことで児童の諸問題に対して迅速に対応できるようにしていく。<br>■言葉づかいは，まだまだ意識が高まっていないので，引き続き取り組みを継続していく。<br>◆毎月10日の「心のアンケート」は，今後も継続していく。<br>◆講師招聘の講演会など，PTA活動と連携して保護者への啓発のための方法を今後も検討していく。 |
| ⑤業務改善 | | | | | | | |
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | （1）呼子小働き方改革の実践 | ・超過勤務を一人当たりH30年度より10%削減 | （1）業務と学校行事との相関を探り，業務記録管理ソフトを活用し，タイムマネジメントを意識した働き方に取り組む。<br>・行事等に見通しを持って取り組んだり，互いに声を掛け合ったりしてハッピーフライデーに学校全体で取り組む。<br>・各種業務項目のマニュアル化で共通理解を進め，業務の無駄をなくす。<br>・校務フォルダーを活用し，資料提案や意見集約等の簡素化，短時間化を図る。<br>・学級会計を学年会計とし，事務の効率化と会計出納のスピード化を図る。 | A | ◎H30年度と比較して超過勤務時間－13.5%で目標値を達成している。<br>◎業務記録管理ソフトは，全職員によって利活用された。集約・報告の簡素化ができている。<br>▲業務項目の改善は数項目にとどまった。大きな業務改善とすることは進めることができなかった。<br>◎学級会計の事務効率をめざし，担任の支援を事務室で取り組んだ。集金業務の効率化を図ることができた。<br>◎教職員の事故等は，発生がなかった。<br>◎PTAによる「子ども110番の家」依頼が進んだ。地区の役員さんとの連携でまとめていく。<br>▲「呼子小働き方改革」については，行事の見直しを含め改善が見られるものの，さらに教職員一人ひとりの「タイムマネジメント」の意識を向上させ，改善を進める必要がある。 | ■業務と学校行事との相関を探り，改善を図る。また，改善の視点を掲げ，改善手立てを探り，試行を進める。<br>■業務記録管理ソフトの活用を高め，業務時間の管理に関心を持たせ，日々の業務作業の効率化を自覚させる手立てを探る。<br>◆ムダ・ムラ・ムリを無くす観点で進める。<br>■今後も「子ども110番の家」依頼については，PTA活動の予定に組む。学校区の役員会と連携を取る。<br>■防犯ブザーの所持増加のために，懇談会や校内PTA研修会において啓発を進める。<br>◆予想される事故や事案を想定した，対応マニュアルを作成し，更に発生予防に努める。<br>■「呼子小働き方改革」をさらに進めるために教職員一人ひとりの「タイムマネジメント」の意識向上に努める。 |
| 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 | | | | | | | |
| 教育活動 | ●健康・体つくり | （1）健康な身体をつくるための食育の推進<br>（2）歯と口の健康つくりの推進 | ・朝食を摂る児童の割合を90%以上にする。<br>・食（食材等の生命を含む）を大切にする児童を育てる。<br>・集団・個別の歯みがき指導に力を入れる。<br>・歯科検診後の治療率（受診率）を全学年60%以上にする。 | （1）各学級で「食」に関する指導を行う。また，給食準備中に栄養教諭による巡回指導を行う。長期休業明けの生活のリズムを整える「生活改善週間」を設定し，「早寝・早起き・朝ごはん」の推進を図る。<br>（2）歯肉炎と歯垢2の児童に対し，ブラッシング指導を行う。（気になる児童と1・2年生は個別指導を行う。）長期休業前に治療が必要な児童・保護者に対して治療を呼びかける。（6月・11月）※未受診者には繰り返し行う。 | B | ◎朝ご飯の摂取率は95%以上に定着でき，目標値を達成している。<br>◎各学級での担任による指導や，給食時間中の栄養職員による指導などにより，ほとんどの児童が朝食を摂取するようになった。<br>◎「早寝・早起き・朝ごはん」の推進から，生活リズムが大きく崩れた児童は見られなかった。<br>◎歯科健診後に，1・2年生全員へのブラッシング指導を学級活動で行ったり，個別に行った。日頃の担任や養護教諭による指導を含めて，治療率やむし歯予防への意識の向上に繋げた。<br>▲朝食は摂取しているものの，「甘いパンだけ」などの児童も見られた。 | ◆引き続き，朝食の大切さを指導していく中で，バランスよく食べることを指導していく。<br>◆家庭でのブラッシングや，早期治療を促す啓発を，保健便りや学級便り，面談等の機会で呼びかける。 |

●は共通評価項目，○は独自評価項目

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

◎　基本的な生活・学習習慣の向上については，重点項目を設けたり強調週間を設けたりした継続的な取り組みで，落ち着いた生活や学習の様子に変容が見られた。また，学校生活を広報したり国会したりして，保護者との情報共有を進めた。学校と家庭が一体となった児童理解と変容を進めることができた。
◎　学力向上についは，意欲面の向上等，一定の成果が見られたが，学習活動を重点化した授業改善，基礎事項の確実な定着をさらに進める必要がある。児童の主体的な学びを更に展開するために学習指導方法の研修・研究を進めていく。
◎　人権教育を基盤にした児童の学習活動，環境，人間関係づくりを創っていくために，日常活動，行事，教科等を人権教育の視点で横断的につなげ，職員集団の組織づくりや視点を明確にした取組を進めていく必要がある。